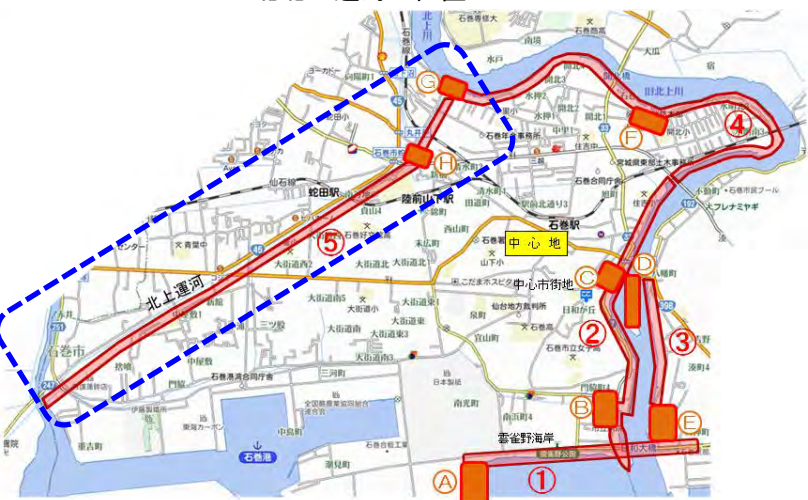


8. 北北上運河のルート、拠点、ポイント

北北上運河の位置



8-1 北北上運河のポイント

- 運河では、高校生によるボートやカヌーの練習、そしてNPOIによる子供を対象としたボート体験が行われており、水面利用が盛ん。
- 大街道より南の運河では、松並木と運河がすばらしい景観がたのしめる。市民団体では、ライトアップなどの活動により地域活性化に取り組んでいる。
- 運河交流館や石井閘門が位置するところは、滝があり、石井閘門が眺められる憩い空間となっている。また運河交流館では、石井閘門の歴史なども学ぶことができる。

中里川憩い広場



運河交流館



運河沿いに散策路は多くの人利用



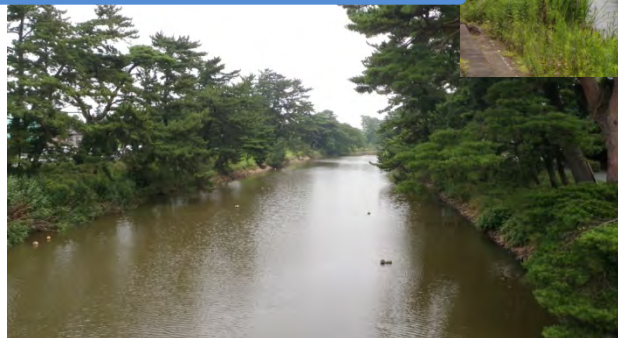
運河はボートやカヌーが盛ん



石井閘門



松並木と運河のすばらしい北北上運河の景観



地域の憩い空間として利活用



中里川憩い広場の滝



ルート
5

ルートテーマ

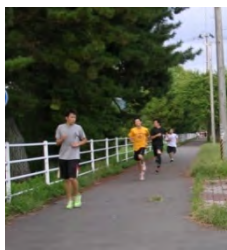
運河の水辺と緑を楽しむ
「運河ルート」

ルート方向性

- 既に散策路が整備済(新たな整備は行わない)
- カヌーやボードを使った水上の利活用が多く、運河の景観の一つとなっている。また、運河沿いに並ぶ松並木も良い景観となっており、市民団体によるライトアップ活動も行われており、今後も引き続き利活用を推進。

水辺の現況

- 運河沿いには既に散策路が整備され、散歩やウォーキング、通勤通学、サイクリング、生活道路などとして利活用されており、既にプロムナードとなっている(新たな整備は行わず、利活用を推進)。
- 運河では、カヌーやボードの練習そしてNPOによるカヌー体験が積極的に行われており、水上利用が最も盛んなルート(散策路からこのような活動を眺めるもことも、このルートの見どころ)。
- また運河沿いには松並木が続いており、北北上運河のすばらしい景色となっている。市民団体では松並木をライトアップし、運河のPR活動を進めている。



▲既に散策路(プロムナード)が整備され、散歩やサイクリング、運動などで利活用が図られている



運河と松並木のコントラストがすばらしい景観を形成。

石巻で盛んなボートやカヌーも見られる。



▲運河沿いに散策路が整備され、ゆったりした運河を眺めながらの散歩ができる



▲市民団体による北上運河の松並木へのライトアップ(石巻日々新聞提供)

利活用方策

- 石巻の既存の散策路や堤防上では散歩やウォーキングを楽しんでいる方を多く見かけます。そのため、プロムナード(現散策路)には散策時の目安となる距離標等を設置(自分の現在位置がわかる工夫)。



距離標のイメージ

- 運河沿いの散策路や河川・水路の除草などの維持管理方策について検討を進める。
- 水辺利用や運河沿いの散策が進むよう、北上川・石巻湊公開講座により運河を題材とした講座や現地学習会などを企画。



▲北上川・石巻湊公開講座(屋内及び屋外での講座風景)

(快適な運河沿いの散策環境を目指して)

- 中里川の延長にある釜幹線水路については、「水がよどみ水質が悪く異臭がたちこめる」、「マコモが繁茂してゴミ不法投棄の要因」などの意見が多く示されたところであり、問題解決そして快適な散策環境のためにも定期的な地域と行政との話し合いを継続して少しずつでも解決の方向へ向けていく。



▲夏にはマコモの繁茂や異臭のする釜幹線水路



拠点テーマ

川を学びと水とふれあう 「水辺の交流広場」

拠点方向性

- 運河交流館(交流と学び)、石井閘門水辺広場(活動)、中里川憩い広場(憩い)の3施設が、一つの施設とすることで拠点性を向上(⇒一体化のための整備)。
- 施設(拠点)の利活用を推進するため、使い勝手が良くなるような整備や取り組みを推進。

現況

施設のテーマ

施設管理

運河交流館



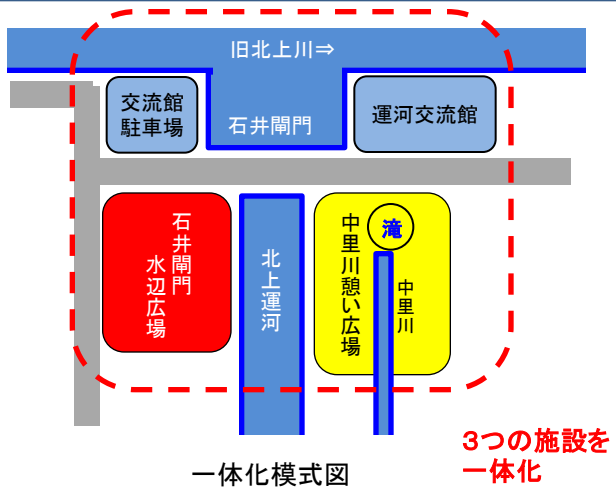
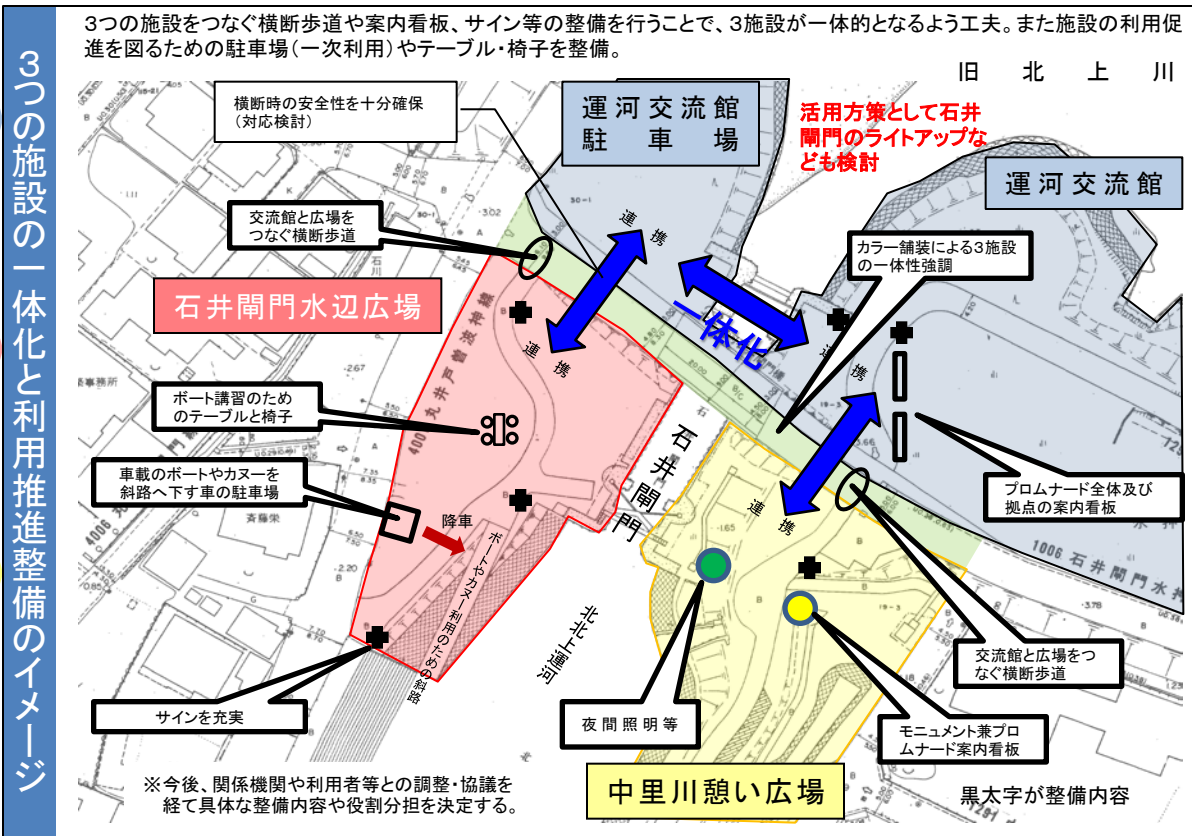
石井閘門水辺広場



中里川憩い広場



3つの施設の一体化と利用推進整備のイメージ



整備実現及び
利活用推進に向けて

- 旧北上川や北上運河を学び、運河でカヌー体験をするなど子供たちが川を知る総合施設として活用。
- 施設の利活用の推進に向けて、NPOや市民団体、町内会等と調整を図り、3施設を一体的に管理(新たな管理団体の設立に向けて検討)
- 拠点「水辺の交流広場」の利活用を推進するため、新たな管理団体によるオープンカフェや水辺学習会などの取り組みを推進。
- 拠点の利活用推進に併せて、バスで観光客が石井閘門を見学できるように、バスが拠点の近傍に止められるように検討。
- 運河交流館駐車場にて駐車が不足する場合は、周辺空地を検討(民間)。



運河と緑の憩いの空間
「水と緑と子供たちの広場」

拠点方向性

- 既に公園が整備されており、散歩や部活動でのランニング、サイクリングなどでの利活用が進んでいる(新たな整備は行わない)。
- プロムナードとしてもっと使い勝手を良くする工夫を今後検討(プロムナード全体や現在位置がわかる看板の設置など)

拠点の現況

- 運河沿いの散策路と一緒に既に公園が整備されており、散策路を通る人たちが休憩や憩いの場所として利活用が図られている(既に拠点となっている)。
- 沿道には桜が植樹されており、春には花見の人で散策する人が多い。
- 公園には鴨が休み、ほのぼのとした雰囲気に入れられ、地域に親しまれる公園となっている。



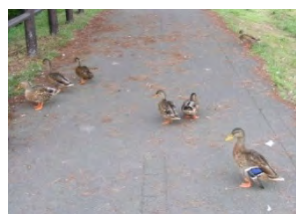
散策路の沿道には桜が植樹され、公園のベンチで休みながら桜が眺められる



運河と桜が並ぶ景観もすばらしい



公園にある運河整備事業の看板



公園では鴨が休憩しており良い雰囲気を醸し出している



ランニングしている学生たち



自転車での散策



木陰で休んでいる人も

利活用方策

- プロムナードの全体図や現在位置がわかるように看板を設置して、プロムナードを巡る散策の推進を図る(⇒新たに広場を設置)



サイン・看板イメージ

- 運河沿いの散策路や河川・水路の除草などの維持管理方策について検討を進める。
- プロムナードの利活用が進むようにイベント開催などを今後進めていきます。



ウォーキングなどのプロムナードを活かしたイベントイメージ

(快適な運河沿いの散策環境を目指して)

- 中里川の延長にある釜幹線水路については、「水がよどみ水質が悪く異臭がたちこめる」、「マコモが繁茂してゴミ不法投棄の要因」などの意見が多く示されたところであり、問題解決そして快適な散策環境のためにも定期的な地域と行政との話し合いを継続して少しずつでも解決の方向へ向けていく。



▲ 夏にはマコモの繁茂や異臭のする釜幹線水路

9. 計画実現に向けて

(1) 要整備ルート・拠点の各機関の整備役割イメージ

案内看板やサインについては、全ルートと拠点を共通するデザインや見やすさなどを工夫する中で整備を推進するが、堤防整備や大規模な埋め立て、盛土を行うルート・拠点においては、今後、整備内容が明確化する中で関係機関連携で整備を推進。計画実現に向けて、行政機関並びに民間団体も加わった勉強会等を開催していく。

地区名	ルート・拠点	整備が必要なルート・拠点名	整備役割イメージ				その他
			国	県	市	民間	
雲雀野海岸	ルート①	潮風ルート	-	基盤整備	散策路などの整備	-	
	拠点A	いしのまき港公園	-	整備内容は検討段階であり区分けできず。今後、整備内容が明確化になる中で役割分担。			
旧北上川右岸下流	ルート②	旧北上川と石巻湊ルート	堤防等河川整備	-	植栽・安全柵など	-	
	拠点B	水辺の癒し空間	堤防等河川整備	-	植栽・安全柵など	-	
	拠点C	食・彩・感動いしのまき	堤防等堤防整備	-	整備内容は検討段階であり区分けできず。今後、整備内容が明確化になる中で役割を分担。		
旧北上川左岸	ルート③	歴史と漁港ルート	堤防等河川整備	-	植栽・安全柵など	-	
	拠点E	石巻観光マリーナ	整備内容は検討段階であり区分けできず。今後、整備内容が明確化になる中で役割を分担。				
旧北上川右岸上流	拠点F	旧北上川水辺広場	河川防災拠点の基盤整備は国にて整備が可能、その他施設は整備内容は検討段階であり具体が見えてきた中で役割を明確化				
北北上運河	拠点G	水辺の交流広場	整備内容は検討段階であり区分けできず。				

※プロムナードや拠点の利活用や運営に際しては、地域の方々と共に進めていく必要があります。

(2) 観光等施設のIT化

観光等の施設に携帯電話で読み込めるQRコードを配置し、携帯電話からコードにアクセスして各施設の詳しい施設紹介やガイドを行うことで、プロムナード散策の楽しさを向上や施設利用を推進する。

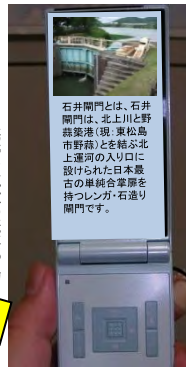
携帯電話で読み込めるQRコードを施設に配置



携帯でアクセス

イメージ

携帯で施設の歴史や場所



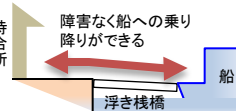
イメージ

(3) バリアフリーへの取り組み

水辺と緑のプロムナードでは整備可能なところにおいて、誰でもが使いやすいバリアフリー化を推進。

内港地区で整備を進めている離島航路発着所では、待合所から船への乗り降りしやすいよう、バリアフリーとして整備を進める。

離島航路のバリアフリーイメージ



(4) プロムナード利活用の推進

(4-1) 北上川・石巻湊公開講座の推進によるプロムナード散策の関心向上

北上川をテーマとした「北上川・石巻湊公開講座」を継続的に開催して、市民の多くの方に水辺を散策する面白さをPRし、プロムナード利活用の推進につなげていく。



▲第1回 北上川石巻湊公開講座の講座風景

(4-2) プロムナードツアーの企画と社会実験



▲観光ツアーイメージ
(北上川石巻湊公開講座による歴史探訪)

プロムナードや拠点をを使ったツアーをNPOやボランティア、大学などと連携により企画していくとともに、ツアーの社会実験を行って、より市民や観光客に満足いただけるものにレベルを高めていく。

(4-3) プロムナード共通デザインによる距離標や案内看板、サインの整備推進

プロムナード利用の推進を図る観点から、共通したデザインによる距離標や案内看板、サインを整備する。



▲サイン・案内看板のイメージ

(4-4) 市民による石巻を紹介説明文作成

新たな散策ポイントの増や市民ライクで分かりやすい施設説明、プロムナード利活用の市民参加を推進する観点から、市民による施設の案内説明文の作成と設置を行う。



▲説明看板のイメージ
市民視点でわかりやすく、深みのある説明文を作成

(4-5) プロムナードマップの作成 (フットバスマップ)



▲フットバスのイメージ(最上川 長井)

水辺沿いのプロムナードに加えて、市街地の観光施設や魅力あるポイント、トイレ、食事処、バス停留所などをわかりやすく記したマップの作成を大学や民間、NPOと連携して作成(例 最上川フットバス)。

(参考) 計画策定にあたり懇談会委員及び住民からいただいた意見等

懇談会での主要な意見等(3回分)

- 北上川は今まで産業的な側面から使われてきた経緯がある。これからは、市民の川という視点と、次世代にどう残すかという視点が大事。
- 市民に浸透していないのは、場所がわからないからで、散策道にしても連続していない。運河交流館も上手くPRされていない。サインの充実が必要。
- 人間には景観的に心地よい視野や景観角度がある。大人の目線、子供の目線でその景色や景観を活かした良さを取り入れるべき。
- 石巻の街中の建物は昔と比べて変わってしまったが、埋もれた歴史遺産を掘り起こしながら、市民に提示できればよい。
- 北上川はすごい観光資源。場面々々での特徴づけが大切であり、テーマをつけながら拠点をつくるのは良い考え。
- 松島にも遊歩道が整備されているが、歩いている人は少ない。歴史的なスポットや地元の人が憩える場所などを散策路とセットで考えるべき。住民を巻き込んでのにぎわいづくりが大切。
- 親子で楽しめる施設が(拠点に)あると良い。石巻のまちづくりを考えた時に、これまでの活動の経験から、子供たちを対象とすることが大切。
- 駅利用の観光客は、拠点が遠いところもあり、貸自転車の検討が必要。
- 歩道に距離表があると便利。
- 拠点には駐車場が必要。
- 中瀬は、他ではなかなか見られない川に浮かぶ島であり、観光拠点として大切。
- 市民による利活用が大切(例えばイベント、コンサート、川を縦断的に一斉に行う水質試験、川の学習会、等)
- 雲雀野海岸にて津波防災も兼ねたシンボルタワーはたいへん魅力的。
- (大橋地区)新たな市民会館と併設して若者たちが集える場所が望ましい。
- 石井閘門と運河交流館はもっと市内外にPRすべき。そのためには拠点にバスが停留する機能が求められる。道路横断も安全対策を十分に考慮すべき。
- プロムナードごとに、特徴あるマークやサインを作るべき。
- 中瀬はミュージアム的な機能が求められる。港のシンボルとして船をモニュメントとして設置すべき。
- 拠点「いしのまき港公園」には、子供たちが水辺で戯れられるような場所にすべき。
- (大橋地区)新たな市民会館と防災拠点は、当地区が花火会場ということを念頭に置いた設計をすべき(花火をよく眺められる)。特に新たな市民会館は、周囲に威圧を与えない高さとし、遠くからでも花火が見れるようにしてほしい。

沿川町内会からの主要な意見等(37町内会 91名)

(北北上運河について)

- 運河や釜幹線水路の水質が悪い。特に釜幹線用水路は夏場には臭いがするし、マコモが繁茂して、ゴミ不法投棄の温床となっている。快適に散策できる環境にしてほしい。
- マコモは水質浄化に役立っている。マコモの間引きや散策路の除草は必要(維持管理)。
- 運河沿いの散策路は、途中、バイパスや大街道で分断される。安全に渡れるように配慮してほしい(少しまわり道でも安全に渡れる工夫)。 ↗ (右上に続く)

(左下からの続き)

- 石井閘門の説明板は大人向けであり、子供向け用のものが欲しい。川の生物・植物を学べる場が欲しい。
 - 運河沿いの植栽は松よりも桜の方が良い。松枯れした樹木の伐採と補植し景観と環境の観点から重要。
 - 住民パワーを利用してプロムナード計画を推進すべき。
 - 歩行者と自転車接触しないよう配慮すべき。また、運河沿いの散策ではトイレが無い。
- (旧北上川右岸上・下流、旧北上川左岸、雲雀野海岸)
- 旧北上川の不法係留船は、早期に撤去して欲しい。マリーナ整備は優先整備すべき。また沈船も景観上としても悪い。
 - 新たに整備するプロムナードは、夜、水辺を歩く人も考えて照明を考えて欲しい。
 - プロムナードから住宅地へ渡る際の安全対策は重要。
 - 日和大橋もプロムナード計画に入れるべき。橋からの景観はすばらしい。
 - 造船所で大型船を船から引き上げる技術はすごい。造船技術のPRは大切。
 - 湊地区の歴史的なポイントは、山際に多くあって水辺沿いから距離がある、プロムナードに設置するサインなどを工夫して欲しい。
 - プロムナード整備と併せて内水対策は重要(門脇・湊地区)
 - 中瀬から見た湊側が汚いイメージ。プロムナードでは景観も検討すべき。
 - 散策路は、子供たちが遊びながら学習できるような観点も必要。
 - 内海橋をプロムナード計画に入れるべき。
 - 快適な散策環境として臭い対策も必要(門脇)
 - 雲雀野海岸の拠点には、子供連れでも安全に釣りが出来る場所を望む。
 - 拠点にはトイレ、駐車場などを備えて欲しい。

水辺で活動する市民団体・NPO等からの主要な意見等(5団体)

- 中瀬が一周できるようなテラス護岸にして欲しい。
- 水辺でバーベキューができる環境が欲しい。
- 中瀬の公園は子供連れの親子でよく利用されている。ベンチや遊具、日よけを増やしてほしいという声がある。
- 運河交流館ももっとPRすべき。石井閘門も開放して船を通す機会を増やすべき。
- 門脇と湊のプロムナードは異なるデザインとすることで、回遊の面白さをPRすべき。
- 拠点G「水辺の交流広場」に照明等と東屋が必要。
- 湊地区の「川の駅」には、歴史の展示や案内があると良い。さらに船の出入ができるような施設が良い。
- 雲雀野海岸の拠点には、近くの水産試験場と連携して、じゃぶじゃぶ水路に海水を導いて、海水生物を放つと良いのではないか。子供たちが安心して、生物とふれあえる。